

いつまでもお元気で！ ご長寿お祝い訪問

今年度中に88歳（米寿）と100歳を迎えられる方を、10月7日に町長がお祝いに訪問しました。

対象は、88歳を迎えられる方（昭和7年4月2日～昭和8年4月1日生まれ）150人と、100歳を迎えられる方（大正9年4月1日～大正10年3月31日生まれ）16人（うち国の事業のみ対象の方1人）です。



88歳 米山光子さん（前列左）・100歳 金川文枝さん（前列中央）
88歳 森岡春江さん（前列右）（ル・ソラリオン名和）

88歳祝の方には町からの祝詞と記念品を、100歳祝の方には内閣総理大臣からの祝状と国と町からの記念品をお渡しし、ご長寿をお祝いしました。

今年は、新型コロナウイルスの影響で、直接訪問による手渡しを希望される方以外の方は祝状と記念品は郵送させていただきました。本来より訪問数が

が少なくなりましたが、対象者のご自宅や入所先に伺うと、訪問を楽しみに待っていてくださった方、これまでの人生の歩みを語ってくださる方など、訪問した側が元気づけられました。ご長寿おめでとうございませう。これからもお元気で、楽しくお過ごしください。

鳥取県指定無形民俗文化財

宮内のうわなり嫩打ち神事が執り行われました

10月31日から11月1日にかけて、宮内の高杉神社で執り行われました。

起源は室町時代にまでさかのぼると伝えられています。かつてこの地に赴任した高貴な人物の正妻と、地元第二夫人、第三夫人が嫉妬の念から争いをおこし、死してなお怨念が宮内に災いを引き起こしました。そこでその災いを鎮めようと始まったのがこの神事です。



ご夫婦共に88歳祝。秋田俊治さん、秋田咲子さん（束積）

今年、祭りの主役を担う「うちぢみ打神」

に選ばれたのは美谷伸政さん、建部伸文さん、角田行弘さんです。この3人は争いをおこした夫人役として暗闇の中で神聖な儀式を受け、打ち合い式をして怨念を鎮めます。今でも撮影や立ち入りが禁止されている儀式が多く、奇祭といわれています。区長の馬田栄司さんは「4年に一度しかない神事は受け継ぐのが大変で、形を変えないよう伝える仕組みづくりも重要」と伝承の難しさを話していました。

